

志木市議会議員 無所属

天田いづみの議会だより

市議会・まちづくり情報



〒353-0006 志木市館1-1-2-108

Tel/Fax:048-471-1338

E-mail: amada@ff.e-mansion.com

天田いづみのホームページ <http://www.ff.e-mansion.com/~amada/> 第51号 2015年2月

持続可能な自治体経営に向けて

前号でお伝えした公共施設等マネジメントとは、公共施設等の全体を把握し、長期的な視点を持って更新・再配置・複合化・長寿命化等を計画的に行っていくことで、志木市も今後第5次総合振興計画(2016年～25年)と合わせて計画を策定していきます。

天田いづみは単なるハコモノ論ではなく、20年、30年後を見据えた持続可能な自治体経営に向け、先進自治体に学び、民間のノウハウを活用した発展性のある市民・民間・行政協働のまちづくりに向けて提言しました。

流山市はデザインビルド型(設計・施工一括発注方式)包括施設管理業務委託として、各課所管施設の保守管理・点検業務を一括して発注、①価格②+αのサービス③柔軟性④市内業者活用等を基準にしています。

また、エネルギーコスト抑制・環境負荷低減に向け、公共施設をまとめてESCO事業(省エネ診断・施工・維持管理等を一括発注)を行い、先進自治体同士の連携により進化させています。

民間のアイデアを公募し、広告代理店に企画広告主の募集・設置・管理運営・撤去を一括発注、施設まるごとを対象に企画提案を受け付ける「まるごと有料広告」など、200万円の事業をするために

は200万円を稼げる工夫をしているということです。

秦野市は公共施設等マネジメントのトップランナーです。志木市の状況(2013. 3. 31)も調べて作成された資料によれば、秦野市と同様、志木市もハコモノ面積を今後25～30%程度削減しなければ持続可能な自治体になっていかないということです。

しかしながら、この中には市民病院が含まれているので、2014年度からTMG宗岡中央病院として、病院を地域に残しながら公共施設を負担軽減でき、関係者の皆さまには心から感謝したいです。

リスクの高い自治体に民間は知恵もお金も出せない。これからは民による官の選別が進む。住民も民間も選んでいく。わけてもさしたる大きな企業もない志木市は、よほど心していかなければいけないと思います。

説明責任、利害調整も重要です。市役所でも地域でも、経済成長を知らない世代に決定権はありません。若い世代がもっと声を上げられるように。また、お子さんお孫さんたちのことも考えていきたいと思います。という働きかけが必要です。

佐倉市では、公園と市立保育園の土地を交換して市立保育園を改築する、学校体育館のステージを下げてバリアフリー化し防災避難所としての機能を高めるなどの工夫をしています。インターネット公

有財産売却システムでは、行政で使っていた道具が高値で売れたりしているそうです。

汎用性、機能重視で、結果的にコスト削減もなしとげています。

天田いづみは三ツ木保育園跡地等をすぐさま売却せず、公共施設の再配置等に備えるべきと働きかけてきました。ここで障がい者の通所施設として社会福祉法人等による設置・運営事業者を公募、三ツ木保育園跡地が活用されることになりました。

佐倉市は学校プールについてもコストを算出、民間プール活用のメリット・デメリット等、あらゆる可能性を排除しないで検討の俎上に載せています。

志木市の担当者は、20～30年後を見据えた計画にしたい、学校施設も検討の中に入れていきたいとのこと。地域コミュニティの拠点だからこそ、市民が学校のあり方を考えていくことは重要です。

氷見市では、市長はじめ職員がワークショップ形式で、使い勝手のいい新市庁舎に向け市民の意見をきめ細やかに汲み取り反映、合意形成のあり方として参考になります。

9月議会では縦割りを越える庁内体制、先進自治体からノウハウを学び情報交換しながら進める、民間と柔軟に連携し、民間事業者の提案を受け付ける、施設維持管理を包括的に委託する等の考えについて質しました。

香川市長からは「公共施設等マネジメント戦略策定に当たっては、庁内一体となって横断的に知恵を出し合う取り組みが肝要、8月1日に検討委員会を設置し、主幹課長などの幹事会を組織し取り組んでいる。

各施設の再配置、複合化を考えるのみならず、市内業者の活用やスケールメリットによるコスト削減等の視点を持ち合わせ策定する必要があると十分認識している。

今後場合によっては市民の皆様方の総論賛成・各論反対という大きな壁にぶつかることも、さらには利害調整等が発生することも十分想定されることから、私自身もしっかりと説明責任を果たしながら取り

組んでいきたい。」との答弁がありました。

* * * *

12月議会では、事業別財務諸表を作成している町田市の事例を紹介しながら、市民と共有しつつ進行管理していく工夫について香川市長に伺いました。

志木市では行政評価を見直して来年度から事業仕分けをしていくということです。まずは職員が適切に自己評価を行い、成果や財務を踏まえた事業の課題を行政内部で共有することが重要です。それを市民と共有することで、自治力を高めていくことができると考えます。

町田市は日々の会計処理に複式簿記を導入し、全組織、全職員による日々仕訳け、また、予算科目を課の単位に組み換え、課別の財務諸表を作成しています。

各課の遂行している事業の財務・効果・経年変化・施設の状況まで一目でわかるシートをつくり、冊子にまとめて全てホームページで公開、市民と共有しています。

事業に関わる人員や資産老朽化比率の推移も経年変化でわかるようになっており、事業のマネジメントのみならず、公共施設等マネジメントに向けた議論に活用していかれるものです。

市民に身近な事業を集めたパンフレットには「…事業の成果が上がっているか、税金が効果的に使われているかなどが明らかにされています。」の市長メッセージ。市長のイニシアチブに対し、当初職員は、何でこんなことをやらなくてはいけないのか？と全く理解がなかったが、勉強会をしたり組織の内部で積み上げ、今日では時代の趨勢を先取りしたトップランナーです。そもそも市民の税金をお預かりしている行政として、すべきことを実直に地道にされているのです。

行政評価は行われているのか聞いてみましたが、外部監査はされているが行政評価はしていないとのこと。ここまでPDCAサイクルが機能していれば、必要ないなと感じました。

町田市は事業仕訳も年々進化させて行っており、

参考になると思います。

香川市長からは「事業仕訳の制度設計にあたっては、市民力人材バンクに登録いただいた市民の皆様や識見を有する方など多角的な人選を行うとともに、本年度から実施したサマーレビューと連動させることで、予算編成段階でもその意見を反映できる仕組みを構築していきたい。

町田市の事例についても十分に研究しつつ、事業に関わるコスト等の説明も含め職員の事業管理意識を図っていくとともに、市民の皆様方に事業内容等をわかりやすく伝え、課題を共有し、より精緻に事業を分析できる志木市らしい制度に向けて工夫していきたい。」との答弁がありました。

サマーレビューとは、本来各課からの予算要求は10月からですが、新規事業や政策的に重要な事業については、8月頃に担当課・政策推進課・財政課でディスカッションを行ってきたということです。

大切なのは予算ありきではなく政策なので、政策論議を十二分に行い、市民や有識者の視点や考え方を反映していくことで、PDCAの輪がしっかりと回っていくと考えます。歩きながら柔軟に見直しつつ発展させていけるとよいと思います。



2014年9月議会 一般質問より

■ 生活困窮者の自立に向けて

～生活困窮者自立支援法について～

2015年度から、志木市でも生活困窮者自立支援事業の実施が義務づけられます。特に、貧困の連鎖を止めるために、子どもたちへの支援は現役世代の責務と考えます。

OECDによれば、2000年代半ばにおける我が国の子どもの相対的貧困率はOECD加盟30カ国中12番目に高く、OECD平均を若干上まわっている。大人1人世帯(母子世帯等)の相対的貧困率はOECD加盟国中最も高いということです。志木市でも、就学援助を受けている小・中学生は15%前後

で、国と同じような状況です。

必須事業と合わせて、任意事業の学習支援事業を実施していく考えについても伺いました。

吉岡健康福祉部長「この事業は生活保護に至る前の段階で自立支援策の強化を図るもので、必須事業として自立相談支援事業、住宅確保給付金の支給を行う。

任意事業としては就学準備支援事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、学習支援事業など。

従来、制度のはざままで支援の受け皿がなかった生活困窮者を新たに支援するもの。現在、2015年度実施に向けて、事業の実施方法や実施体制などの準備を進めている。

学習支援については、現在生活保護受給者の内10人程度が県の制度アスポートにより支援している。自立支援制度における任意事業については、今後のニーズを慎重に見極め、必要なものから順次実施していきたい。」とのことでした。

必須事業は国庫負担 3/4 ですが、任意事業は2/3あるいは学習支援事業は1/2と、自治体の持ち出しもあります。他の自治体との連携、支援の場所は近い方がよいけれど個人情報への配慮も必要等、充分慎重に検討を求めました。

また、自立相談支援事業については、直営にしても委託にしても、税や国保、福祉事務所等から安心して繋がっていけるような配慮をしつつ、市役所内での実施を求めました。



2014年12月議会 一般質問より

■ 将来を見据えた予防、健康づくり政策

次期総合振興計画策定に向けて将来の志木市を考えると、やはり健康づくりに尽きるのではないかと考えます。

2020年には前期高齢者(65～74歳)と後期高齢者(75歳以上)の人口が逆転し、後期高齢者が増えていきます。

国保の医療費も介護保険の費用も膨らむ一方、必要な給付費はありますが、最低限に抑えていく努力をすることが、市民の幸せと考えます。

坂戸市では葉酸(ようさん)プロジェクトにまちをあげて取り組んでおり、パン屋さんでは葉酸を多く含むパンを売っていたり、市民も食生活に取り入れ、まちづくりとして取り組まれています。

将来を見据えた予防・健康づくりを考えると、現在スポーツ部門は教育委員会生涯学習課、健康づくり支援課は市長部局ですが、ライフステージごとの健康施策をコーディネートする司令塔となる部署を設置し、市全体で取り組んでいく考えについて香川市長に伺いました。

現在の健康づくり支援課は国保のボリュームが大きく、国保特定健診データの分析や被保険者への働きかけ、重症化予防等には熱心に取り組んでいます。いろは健康21プラン(第3期)で今回初めて分析された地域毎の健康課題等を踏まえた取り組みが求められます。

香川市長「健康施策全体のコーディネートについては、健康づくり支援課が存在するが、本来の業務は国保の給付事務が中心であることから、課の名称と業務内容が一致していないこともあり、必ずしも現状トータルで健康施策を実施できているとは言い難い状況と認識している。

将来を見据えた予防健康づくりに向けて、健康施策をコーディネートする組織の必要性は認識しているので、次期総合振興計画の策定を見据えながら組織の課題を整理しつつ、健康施策を横断的に推進するための課題などについて十分議論していきたい」との答弁がありました。

一昨年視察した山鹿市では、介護予防拠点で元気なお年寄りが育てた野菜や採れた農産物を調理し販売するなど、学びと活動が一つになり、地域づくり、地域活性化を実践していました。産業や観光とも連携したまちおこしです。

香川市長には、地域コミュニティと一体となった展開を求めました。



■ 障害者優先調達推進法

～現状と今後の推進～

障害者優先調達推進法に基づき、市では志木市障がい者就労施設等からの物品等の調達方針により進めています。初年度である2013年度は物品購入、印刷、ふくろ樹林の清掃等、計82万円が障害者就労施設等から調達されました。

一方、総合福祉センターの食堂ひまわりを利用した際、就労継続支援A型・B型事業所の皆さんが学童保育のおやつづくりで、手作りの小さなおにぎりや蒸しパンを1つひとつ丁寧にラップで包む作業をされていました。

宗岡地区の学童保育クラブのおやつは、たまには買うこともあるけれど、なるべく障がい者の方たちの手づくり品を使っているとのこと。心がこもっていて、子どもたちは本当に幸せだと思いました。

障害者優先調達推進法では、市が直接購入するだけでなく、委託先で障がい者の方たちがつくった製品を使っている場合も実績に含めることができるものです。

また、福祉センターの風呂清掃は就労継続支援A型事業所が、福祉センター・第二福祉センターのトイレ清掃は就労継続支援B型事業所が行っており、それらも合わせれば、500万円余りの実績になります。

2年前に視察した宇部市では、事業所と連携して長年障がい者就労支援の取り組みを重ねる中、市が就労へのステップとして、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者及び発達障害者(医師証明)を臨時職員として任用し、市の業務を集めて印刷業務やラベル貼り等を行っていました。市職員3人が支援員として、他の業務をこなしながら支援していました。

志木市では、現時点での一般会計ベースの職員数365人という中では、同様の取り組みは厳しいのではないかと考えます。

志木市は指定管理や委託等、効率的な行政を行ってきたので、障害者の就労支援をしている事業所からの物品購入や役務をお願いしていくことによる支援がよいのではないかと考えます。

2018年4月からは、障がい者手帳を持つ精神障がい者の雇用が義務付けられます。志木市役所としての対応は大きな課題ですが、そうした社会の流れからも就労支援事業所への支援は重要です。

就労継続支援A型は障害者総合支援法に基づき賃金を支払うシステムで、食堂ひまわりで働く皆さんも埼玉県最低賃金802円以上の時給で堂々と働き、しっかりした顔つきで緊張感を持ってされていました。

吉岡健康福祉部長からは「今後は、障がい者就労支援施設等への委託も十分に把握した上で、さらに調達物品等の拡充が図れるよう、庁内各課に対し物品や調達先等の情報を提供し、全庁体制で物品調達等発注に努めていく。」との答弁がありました。



■ 道路行政～計画的な修繕、整備について～

市民の方から「歩道のでこぼこ等、もちろん早く直してほしいけれども、計画的に優先順位をつけて、それに基づきいつ頃出来るかが解れば納得できる。」とのお話をいただきました。

情報公開、説明責任が求められる中、要望に応えることは大事ですが、修繕にしても整備にしても計画的に推進し、市民にわかりやすく理解していただくことが、行政のあり方として重要です。

道路拡幅等の整備も、危険な箇所等あるので、最低限、財政状況を踏まえながら行っていく方針のようなので、都市整備部長に伺いました。

谷澤都市整備部長「2013年度に舗装の路面性状調査を実施し、その結果を基にひび割れ率40%前後の路線を選定し、2014年度から舗装打ちかえ5か年計画により舗装の打ちかえ工事を実施している。

また、道路の整備については2006年度から歩車道分離事業を進め、現在第2期歩車道分離5か年計画により歩道の確保に努めている。

加えて、未改良の道路については、安全性や快適な道路環境を確保する観点から整備効果の高

い路線を選定し、(仮称)道路改良5か年計画を作成し、2016年度から未改良道路の整備を進めていく。」

ひび割れ率40%以上だと国庫補助の対象になるので、緊急性のある箇所から補助を受けつつ補修していくということです。

第5次総合振興計画に向けた市民意識調査では、重点施策の3位に都市基盤施設の整備が入っており、その中の1位が生活道路の整備なので、やはり市民の関心が高い分野です。

維持補修費については今年度予算で3,000万円増の9,000万円となりましたが、今後も9,000万円程度で各年度平準化して執行していくのか。

また、道路改良については、実際拡幅するとなると用地買収が伴い、先送りになることもあるかもしれませんが、計画として可視化し、見える形で執行していくことは大変重要です。

問題は財源です。用地買収をし、道路拡幅して雨水の側溝等を整備するとなれば、そう多くはできないと思います。

公共施設マネジメント等の課題が山積する中、どのような財政的な考えをもって、市全体の予算を踏まえ対応するのか都市整備部長に伺いました。

谷澤都市整備部長からは「維持補修費の中には舗装の打ちかえと緊急維持補修と、突発的な事故に対応するための費用が入っているが、今後も両者のバランスを見ながら執行し、今年度と同じレベルは維持していきたい。

また、新規事業として道路改良等を進めていくが、建設事業だけではなく、維持管理コストについては今後どんどん増えていくことは完全に予想されている。国の動向等も見ると、低炭素化やコンパクト化と合わせて、施設の長寿命化を図っていくのではないかと方向になっている。

その一環として、志木市都市整備部としては橋の長寿命化や公園の長寿命化を現在進めているが、一方では市有建築物の公共施設マネジメント戦略の策定も昨年度からスタートしている。こういった個々の計画を最終的には1つにまとめていくべきなのだろうと考える。2014年4月には総務省からも

公共施設等総合管理計画の策定の要請が出ている。

まず維持管理コスト全体を把握し、それをいかに圧縮、軽減していくか。それと同時に今後の執行を

平準化していくことによって、道路改良などの新規の事業に関してもバランスのとれた執行ができていくのではないかと考えている。」との答弁がありました。

● 天田いづみの活動日誌(主なもの)

- 2014年5月4日 新座自然宿にて引きこもりへの支援について伺う
6日 いろは遊学図書館館長より新年度の体制について伺う
8日 志木中齋藤校長と懇談
10日 環境デー クリーン作戦
11日 志木おやこ劇場 子どもまつり(NPO法人エコシティ志木)
14日 地域活性化への新たな一手: 地方自治法改正と新モデル～シティ・リージョン、脱三セクの新たなモデル導入とその検証～北海道大学公共政策大学院教授 宮脇 淳さん(PHP地域経営塾)
16日 志木市議会議員研修会「志木市庁舎建設基本計画について」(株)環境デザイン研究所会長 仙田 満さん
17日 志木二中体育祭
東の森壱番街防災訓練 安否確認訓練
18日 NPO法人エコシティ志木総会
第5回 スtringス志木定期演奏会
19日 旧志木市立市民病院の解体に伴う住民説明会(TMG宗岡中央病院)
20日 公共施設マネジメントの最適展開～自治体における施設保全と財政運営の接点～
早稲田大学理工学術院建築学科教授 小松幸夫さん他(PHP地域経営塾)
22日 アフターファイブ(21しき市民会議5期)
28日 児童福祉審議会傍聴 子ども・子育て支援事業計画について
29日 「知的障がいのある人たちをとりまく福祉制度について」福祉課主幹 志藤幸子さん(志木市手をつなぐ育成会)
- 6月3～20日 議会定例会
3日 全員協議会…志木市庁舎建設基本計画の中間答申について
14日 新河岸川水系身近な川の水質調査(NPO法人エコシティ志木、志木中科学部)
19日 朝霞地区一部事務組合にて議案調査
21日 「障害者総合支援法で障害者の支援はどう変わる？」学齢期～自立まで 又村あおいさん(NPO法人朝霞手をつなぐ育成会)
男女共同参画パネル展示
22日 志木市吹奏楽団オール志木ウインド 第16回定期演奏会
26日 朝霞地区一部事務組合議会…公共施設等総合管理計画について一般質問
27日 柳瀬川外来植物駆除作戦 志木中生徒ボランティアとの協働による外来植物駆除作業(NPO法人エコシティ志木)
- 7月6日 SAVE JAPAN プロジェクト カヤネズミ原っぱ環境応援作戦「カヤネズミの巣をさがせ！」(NPO法人エコシティ志木、認定NPO法人さいたまNPOセンター他)
8日 4市無所属議員学習会(4市無所属議員政策研究会)
9日 宗岡三小5年生 柳瀬川での総合的な学習の時間(NPO法人エコシティ志木)
12日 志木の杜「ユメマチサロン」柳瀬川魚の水族館(NPO法人エコシティ志木)
14日 柳瀬川出張所2階授乳コーナー、小会議スペース視察
18日 認知症サポーター養成講座 高齢者あんしん相談センターせせらぎ
20日 志木第九の会第16回定期演奏会 メンデルスゾーン オラトリオ聖パウロ



- 22日 手話言語法に関する勉強会（社団法人埼玉県聴覚障害者協会）
- 25日 命のひと声訓練第2弾「志木ハイデンス」（認知症徘徊者声かけ模擬訓練）
- 26日 「地区まちづくり会議」シンポジウム「市民自らが進めるまちづくり」法政大学教授 名和田是彦さん、朝霞青年会議所理事長 為井俊充さん、佐倉市自治人権推進課 小田賢治さん他
- 27日 市民と議員の条例づくり交流会議2014 公共施設等総合管理計画 縮小時代の未来を市民・議会・行政でどうつくる？ 地方自治総合研究所 菅原敏夫さん、鶴ヶ島市長 藤縄善郎さん、氷見市長・ファシリテーター 本川祐治郎さん、首都大学東京 饗庭伸さん他
- 8月4日 みんなの家・志木上宗岡（介護付有料老人ホーム）訪問
- 5日 「マイナンバー制」の課題と自治体の対応 多久市長、全国市長会副会長・「共通番号制制度に関する検討会」座長 横尾俊彦さん、e-corporation.jp(株)代表取締役 廉宗淳さん（PHP地域経営塾）
- 8日 第5回地域ケアエリア会議（高齢者あんしん相談センター 館・幸町）
- 11日 埼玉県市議会第5区議員研修会「人口減少時代における地方議会のあり方」政策研究大学院大学名誉教授 松谷明彦さん
- 13日 4市無所属議員学習会 決算審査の課題（4市無所属議員政策研究会）
- 21日 行政サービスコストABC～コスト算出から事業改革へ～、包括予算編成の可能性 東洋大学客員教授 南学さん（地方議員研究会）
- 24日 第28回“チャリティーいろは市”（志木いろは商店会）
- 26～27日 先進自治体に学ぶ「公共施設等総合管理計画」のつくり方
流山市財産活用課ファシリティマネジメント推進室長 寺沢弘樹さん、秦野市公共施設再配置課長 志村高史さん、（財）建築保全センター 公共建築マネジメント研究センター 池澤龍三さん他
- 9月2～25日 議会定例会
- 11日 高齢者保健福祉計画審議会及び介護保険事業計画策定委員会傍聴
- 15日 敬老会
- 28日 自然に遊ぶ切り絵展 毛利将範
- 29日 朝霞地区一部事務組合議会…2013年度決算について質疑
- 10月3日 第15回屋内消火栓操法技術大会（埼玉県南西部消防本部）
- 4日 第7回ぺあも～る「歩こうかい」（ぺあも～る商店会）
柳瀬川図書館まつり
- 12日 市民体育祭
- 13日 第6回辻銀杏で街あわせ（同実行委員会、共催ぺあも～る商店街）
- 16日 朝霞地区議長会議員研修会「地方財政とその課題」関西学院大学大学院教授 経済学研究科・人間福祉学部教授 小西砂千夫さん
- 18日 いろはふれあい祭り
志彩会日本画展
- 19日 ノルディックウォーキング教室（志木市いろは健康21プラン推進事業実行委員会）
健康まつり（健康増進センターにて）
- 25日 市政功労者表彰式典
天田いづみのティータイム
- 26日 環境デー クリーン作戦 こもれびのこみち（NPO法人エコシティ志木）
- 29日 柳瀬川土手の歩きやすい整備手法について現地で市民の意見を伺い朝霞県土整備事務所に要請
- 30日 マロニエ通り道路照明灯立会い、明るくするよう要請（道路課）…翌日改善されました
- 11月1日 志木市民文化祭、市展
- 2日 SAVE JAPAN プロジェクト カヤネズミ原っぱ環境応援作戦「カヤの迷路に何があるかな？」（NPO法人エコシティ志木、認定NPO法人さいたまNPOセンター他）
- 4日 館1丁目歩道の安全対策について立会い



- 5～6日 市民福祉常任委員会行政視察
香川県高松市…高松っ子いきいきプランについて
岡山県倉敷市…届出避難所の認定制度、子育て支援策について
- 7日 失敗しない「公共施設マネジメント」 町田市の事業別財務諸表～公共施設マネジメントへの活用に向けた取り組み～ 町田市財政課長 市川裕之さん他（PHP地域経営塾）
- 8日 すずらん祭り（障害者福祉サービス事業所 生活介護すずらん）
- 9日 東日本震災復興支援「志木市民まつり～カップだよ！全員集合！！～」
- 11日 館1丁目歩道への自動車侵入防止ポールの設置について立会い（道路課）
- 16日 朝霞地区4市消防団連合点検（埼玉県消防協会朝霞支部）
- 17日 秋ヶ瀬スポーツセンター視察
- 20日 高齢者保健福祉計画審議会及び介護保険事業計画策定委員会傍聴
- 25日～12月16日 議会定例会
- 25日 議員説明会…羽田空港の機能強化に向けた対応について
- 27日 志木中視察、齋藤校長と懇談
- 28日 議員説明会…教育課程の編成に関する検討（夏季休業日の一部課業日化）について
志木市要援護高齢者支援ネットワーク会議及び研修会『社会的孤立を生まない地域づくりに向けて～地域福祉、生活困窮者支援をめぐる制度・施策動向～』
厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 地域福祉専門官 藤咲宏臣さん
- 29日 志木ニュータウン町内会連合会防災訓練
- 30日 野火止用水跡ぶらり散歩～清瀬から玉川上水へ～（NPO法人エコシティ志木）
- 12月1日 志木市庁舎及び市民会館複合化施設建設基本計画検討委員会第4回傍聴
- 4日 志木市社会福祉協議会多機能型事業所の活動について伺う
宗岡四小坂口校長と懇談
- 7日 映画上映「ぼくはうみがみたくなりました」 企画・原作・脚本 山下久仁明さんのお話
障がい者団体、障がい者の通所事業所による展示、販売
第6回 スtringス志木定期演奏会
- 18日 志木駅周辺放置自転車、違法看板等立会い（道路課）
高齢者保健福祉計画審議会及び介護保険事業計画策定委員会傍聴
- 25日 アフターファイブ（21しき市民会議5期）

■ 柳瀬川～河道掘削と土手の整備について～

水害防止を目的に埼玉県朝霞県土整備事務所により毎年柳瀬川の河道掘削が行われています。今回は3月頃から高橋付近の河川敷を掘削予定です。合わせて、以前掘削した志木大橋付近にも砂利が堆積しているので、河道の中の砂利の撤去が行われます。

「柳瀬川の土手を歩きやすく」とのご意見をいただき、朝霞県土整備事務所にお問い合わせしました。普段歩いている方にどのような整備方法がよいか伺い、皆が歩きやすい素材で検討されています。

**** これまでの活動とその成果は！！ ****
天田いづみのホームページでご覧下さい



志木ニュータウン町内会連合会防災訓練 2014. 11. 29

ティータイム



4月4日（土）

午後 2:00～4:00

柳瀬川図書館2階視聴覚室

志木の中で身近に感じていることなどを

気軽にお話しませんか？